

## 美里町災害対応ガイドブックもくじ

気づきマップ 3～4ページ

## 洪水・土砂災害

水害対応の心得	5～6ページ
避難を助ける情報	7～8ページ
逃げどきマップの使いかた	9～10ページ
逃げどきマップ	11～34ページ
1 大沢水・堅志田・中郡・岩下・中小路・馬場	11～12ページ
2 中小路・馬場・中郡・萱野・原田・津留・小市野・小筵・佐俣・長尾野・岩野	13～14ページ
3 津留・小市野・小筵・長尾野・岩野・白石野・木早川内・中・椿・弘川・坂本・下草野	15～16ページ
4 弘川・下草野・坂本	17～18ページ
5 名越谷・古閑・甲佐平・豊富・栗崎・今・三加・三和	19～20ページ
6 佐俣・今・三加・名越谷・三和・二和田・栗崎・岩野・坂貫・境・大窪・永富・土喰・安部	21～22ページ
7 岩野・坂貫・境・大窪・永富・安部・椿・下草野・坂本	23～24ページ
8 甲佐平・川越・遠野・畝野・涌井・豊富	25～26ページ
9 豊富・涌井・畝野・栗崎・清水・石野・柏川・洞岳・三和・安部	27～28ページ
10 安部・石野・柏川・早楠	29～30ページ
11 遠野・大井早・洞岳	31～32ページ
12 洞岳・柏川	33～34ページ
浸水想定区域図・浸水想定図	35～38ページ

## 地震

地震対応の心得	39～40ページ
地震想定マップ	41～42ページ
地域のちから	43ページ
指定避難所・指定緊急避難場所・車中避難所	44ページ
非常持ち出し品・備蓄品	45ページ
災害時の連絡・問い合わせ先	46ページ
わが家の避難計画【マイ・タイムライン】	裏表紙

## だれひとり取り残さない

近年、地球温暖化などによる気候変動の影響で、日本国内はもとより世界各地でこれまでに経験をしたことのないような自然災害が発生し、自然の怖さをまざまざと思い知らされております。

熊本県内におきましても、平成28年4月最大震度7を二度も観測した熊本地震では、私たちの生活に甚大な被害をもたらし、多数の方がその尊い命を亡くされました。本町においても震度5強と震度6弱の激しい揺れを観測し、一時は3,000名を超える方々が避難を余儀なくされました。

また、同年6月18日から23日にかけて、活発化した梅雨前線の影響で猛烈な雨が降り、町内の砥用観測局では20日23時から21日1時までの2時間で降雨量が178ミリという経験したことのない降雨を観測しました。この大雨では、町内全域において河川の氾濫や土砂崩れが多数発生し、住宅被害や道路、河川などに甚大な被害が発生しました。本町では、これまでも昭和63年5月の大雨や平成19年7月の梅雨前線豪雨などにより大きな災害を経験してきました。

しかし、近年のこうした自然現象は、ますます激甚化、頻発化しており、いつ本町で人命を脅かすほどの自然災害に見舞われるかわかりません。

町では、今後も『逃げ遅れ防止・だれひとり取り残さない避難体制の構築』を継続目標とし、自然災害への備えとなる『防災対応』を怠ることなく行っていきます。しかしながら、行政の力だけでは町民一人一人の安全を確保することは困難です。そこには、この町に暮らす一人一人の方が防災を自分のことと捉え、自分や家族、そして地域の方々の命を守る行動を日頃から考え、美里町全体として災害対応にあたることで達成できることだと考えております。

今回、そのことを踏まえ、町民の皆様が災害に見舞われる前に、的確な避難行動をとるための一助として、「美里町総合防災マップ」を新たに作成し『美里町災害対応ガイドブック（生き抜く術の心得帖）』として提供する運びとなりました。

この防災マップには、災害時に必要な地域の情報、行動マニュアル、防災情報などを掲載しており、様々な災害に対する知識と方策をまとめてあります。また、以前の表示情報やリスク情報に加え新たなリスク情報として緑川及び緑川ダム、県管理河川の想定最大規模による「最大浸水想定区域図」を反映させたマップとなっております。

さらに、今回の更新に合わせ、広く様々な方に、どこからでも、ご自分のリスク情報や避難経路、避難場所を確認いただけるよう『美里町 Web 版ハザードマップ』の運用を開始しました。

今回更新しました防災マップをしっかりと活用して頂き、自宅のリスク情報などの確認と併せ、平時から心の準備と災害への備えに対し万全を期して頂きますようお願い申し上げます。

令和5年3月 美里町長 上田 泰弘



## 心得1

## 率先して実践・避難

## 自分の命は自分で守る

災害による犠牲者を無くすためには、住民一人ひとりが、「いざというとき、最終的に自分の身を守るのは自分自身である」という原点に立ち返ることが重要です。「自分は大丈夫」と思いこんだり、誰かに頼りきりになり、みずから災害に備える姿勢を失ってはいけません。

## つぎに、大切な人

自分の命を守ることができれば、家族や大切な人を助けることができます。また、家族でいざというときの対応を確認し、普段から備えていることが、家族の命を守ることに繋がります。

## そして、地域へ

地域住民みんなが「率先して実践・避難」することをあたりまえと考えることができれば、個人での対応が困難な状況の人も助けることができる、大きなチカラが生まれます。

## 心得2

## 想定にとらわれない

ハザードマップは、安全を保証する地図ではありません。

想定はあくまで自然現象を予測するシナリオのひとつであり、想定以上の災害の発生も考えられますし、想定が無いからといって安全というわけではありません。

## 心得3

## 状況に応じて避難所に限らず柔軟に避難・対応

避難とは、必ずしも町が指定する避難場所・避難所に行くことではなく、「難」を「避」ける行動のことです。避難のタイミングや周辺の様子から、その場、そのときに最も安全と思われる行動をとりましょう。

自宅の安全が確認出来たら、自宅で避難（在宅避難）しましょう。

## 心得4

## 早めの避難をためらわない

避難の判断が遅くなるほど、行動の選択肢は少なくなります。不安を感じたときや避難を迷ったときは、ためらわずにまず行動に移しましょう。

## 心得5

## 事前の対応が最も重要

災害から命を守れるかどうかは、災害が起こる前後の行動で決まります。そのなかでも、大きく影響するのは、事前（発災前）の対応です。

## 心得6

## みんなで決めて、みんなで避難

避難の決断は、ひとりでは難しいものです。避難を誘う声かけや、一緒に避難する人を決めて助け合いながら避難するなど、みんなで逃げる方法も考えておきましょう。